

令和 8 年 6 月 1 日

和光市子ども・子育て支援会議
会長 森田 明美 様

和光市子ども・子育て支援会議
こども・若者部会
部会長 中 智美

令和8年度第1回和光市子ども・子育て支援会議こども・若者部会に付された事項に対する審議結果について（報告）

当部会に付された事項について、令和8年5月18日(月)に会議を開催し、下記のとおり審議しましたので報告します。

記

1 議題

- (1) 令和7年度のこどもの意見と今後のスケジュールについて
- (2) こども計画の評価

2 意見交換内容

【意見】

- ・意見を言うことはとても難しいことだと思うので、自分たちが意見を言える場、言える環境を整えて欲しい。そしてそれが和光市に反映されていると実感が持てる取組があればよい。
- ・昔と比べて学校でも自発的な学びをする傾向があると思うが、それが学習に留まらず、日常的に自分の意見を伝えることに繋がればよいと思う。
- ・自分を知らない人に自分の意見を伝えることは比較的気楽であるが、逆に自分の身内や自分を知っている人に本当のことを言うことは難しい。
- ・学校で起きたことについては秘密が守られる学校以外に相談したい。学校以外で一步外の視点から支援してくれる人に相談できる場所があればこどもにとって心強いと思う。
- ・学校内に相談することが有効な場合もあるが、一方で秘密が守られる学校外で相談できる場所を求める声もあり、両方の場所が必要なのではないか。
- ・中高生や大学生に情報が届きにくいと、広報運動の強化が必要である。
- ・こどもの意見を聞くだけでなく、その結果を当事者に共有し、こどもに返すことが大事であり、和光市が自分たちの意見を聞いてくれているという気持ちになってもら

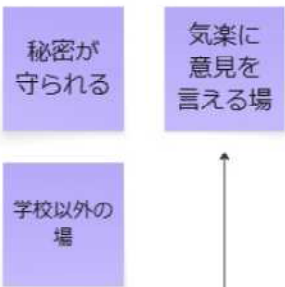
えるようにしたい。

- ・こどもは遊びの中で意欲や主体性を育む。どうやったら友達と仲良くできるかも学ぶ。こどもにとって遊ぶことは非常に重要なことであるとする。
- ・こどもの時期に大事なものは何かということを考えなければならないと思う。
- ・幼児期のこどもへのヒアリング調査の中でも休みたいという言葉が出てきており、条例に落とし込むことで安心感を与えられるのではないかな。
- ・今のこどもは習い事などで忙しいことが多いと思うが、どこまでがこども自身の意思であるかを考える必要がある。
- ・自分でやってみて失敗する経験を安心してできる環境がある事はすごく大事だと思う。
- ・失敗してもいい環境は安心感やチャレンジしようとする気持ちに繋がる。
- ・失敗してもいい環境づくりや安心できる環境づくりは大人や周りの影響によるところが大きい。そのような環境が家はもちろんのこと、家以外の学校やその他の居場所にあるとよい。
- ・声をあげにくいこどもや、情報が届きにくいこどもたちの意見や悩みを聞くためにはどうしたらよいかということは課題だと感じる。
- ・大人もこどもも互いにこどもの権利を理解し、大人が子育てをしていくうえでこどもにしっかりと教育していくことでこどもがのびのび遊んだり、楽しく過ごせたりするような環境ができるのではないかな。
- ・こどもは大人の言うことは絶対に正しいという認識があると思うが、大人も間違えることはあり、大人も自分が必ず正しくなければならないと思う必要はない。大切なのは大人とこどもの相互理解だと思う。
- ・自分のことを見守ってくれて、寄り添ってくれる人の存在はとても大きい。それは決して親である必要はなく、学校の先生や地域の人でもなりえる。

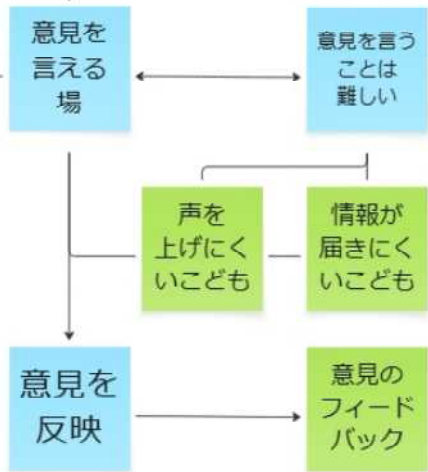
以上

大人の役割

相談できる場



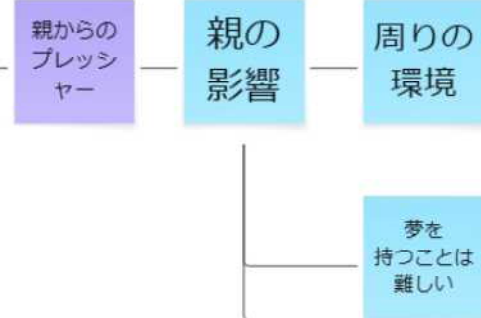
意見表明



失敗してもいい

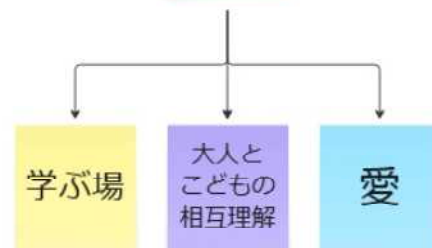


夢を持つ



親の教育

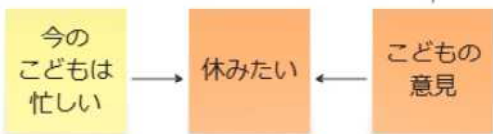
教育



見守ってくれる

自分を見てくれる

休む権利



中 部会長



遊ぶ権利

A委員



B委員



C委員



D委員



中高生・
大学生への
アプローチ